

セクハラ根絶策を情報モラル教育から考え方取り組んだ事例

広野町立広野小学校

取組の内容

本校では、月1回の服務倫理委員会を飲酒運転、セクハラ・パワハラ、体罰、公金不適正処理、個人情報流出の5つの根絶推進委員を中心に、ローテーションで運営しております。各委員が進める新聞等を活用した事例研究会やチェックリストでの振り返り等を通して、教職員間で根絶策についての共通理解を図り、不祥事防止に取組んでいます。

セクハラ・パワハラ根絶推進委員が行った「教員が携帯電話の無料通信アプリ『LINE』を介し、児童に対しセクハラにあたる不適切な内容を含むメッセージを複数回送信した」という事例研究では、教職員の中から、「LINE」自体の持つ危うさを、教師、児童、保護者が十分に理解していないことが課題として挙げられました。そこで福島県教育センターから外部講師を招聘し、教師、児童、保護者を対象とした情報モラル教室を開催しました。



成果

講義により、インターネットの怖さ（広がる・消えない・足跡が残る・あなたが分かる）やネット・ゲーム依存によるゲーム脳化（キレイやすい子）、「LINE」の怖さ（文字言葉は30%しか伝わらず誤解が生じやすい）について認識することができました。また、ネット依存度についても「ネット依存度テスト」（左図参照）をもとに客観的尺度で判断することができ、児童の自覚にも役立ちました。さらに、保護者の感想からは、家庭でのルール作りの必要性や当日参加できなかった保護者への啓発の要望等、危機意識の高まりが感じられました。また、これをきっかけに、中学校と協議会を開催し、毎月第1・第3月曜日を「ノーメディアデー」にすることを決定し、保護者の理解と協力のもと、この10月から取り組んでいるところです。

ネット依存度テスト	
あてはまる項目がありますか？あてはまるものにチェックを入れましょう。	
1	インターネットに夢中になっていると感じていますか？
2	満足を得るためにネットを使う時間を長くしていかねばならないと感じていますか？
3	インターネットの使用を制限したり、利用時間を減らしたり完全にやめようとして失敗したことがありますか？
4	インターネットの使用時間を短くしたり完全にやめようとして、落ち着かなかつたり不機嫌や落込み、イライラを感じますか？
5	使いはじめに意図したよりも長い時間オンラインの状態でいますか？
6	インターネットのために大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、ううなったりしましたか？
7	インターネットへの熱中しすぎを隠すため、家族、教師や他の人にウソをついたことがありますか？
8	問題から逃げるため、または絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みといったい的な気持ちから逃げるために、インターネットを使っていますか？

チェックした数はいくつありましたか？ チェックした数が5つ以上ある人は、依存傾向があるかもしれません。インターネットを上手に使っていためには、インターネットの特性をしっかりと理解して、自分自身で閲覧方法をコントロール（管理）できるようになることが大切です。

終わりに

あ・や・つ・る・こ	
あ	相手のことを考える子 あなたのことを考えてくれているメッセージを受取ると、うれしくなるでしょう。だから、文章を送る前に、もう一度読み直して相手の気持ちを考えることが大切ですね。それから、相手の状況を考えて、返事を待つてあげることも必要ですね。
や	役に立つ使い方を考える子 自分のために立つ使い方ってどんな使い方なのでしょう。勉強のために何かを調べることや、家族と連絡をとるために使うのは役に立つ使い方ですね。なにより、相手が笑顔になる使い方がいい。
つ	使い方を返り返る子 保護者や先生にどんな使い方をしているか質問されたときに、キチンと説明できるかな？「こういう風に使っています」と言えるようになるといいね。スマホやゲーム機をどのように利用しているか自分で振り返ってみましょう！
る	ルールを考える子 使うためのルールを自分で言うことができますか？小学生のあなたは、保護者といっしょに考えて、自分でルールを守ることでいい場所や場面、「既読」「開封」の対応も、一緒に使うお友達も、ルールを考えて守ることができるようにしましょう！
こ	こまつたときは相談できる子 「悪いことをしてしまった」と思ったら、自分で何とかできると考えず、親や先生に話してみる勇気をだそう少しでも怒られるかもしれないけれど、きっとあとで「よかった」と思うはず。

この取組は、不祥事根絶に向け、校長より任命された不祥事根絶推進委員を中心に、教職員全員の当事者意識と同僚性を醸成しながら推進してきた服務倫理委員会による活動の一例です。今後も教職員の自発的な取組みから派生する疑問点や課題については、外部講師等を招き研修を深めたり、家庭・地域と一体となった活動を展開したりすることも取り入れながら、学校・家庭・地域の共通理解のもと、教職員としての自覚や使命感を高め、不祥事根絶の取組を推進していきます。